

## 山田小学校 保護者説明会 会議録

- 日 時 令和8年3月23日(月) 19:00 ~ 21:00
- 場 所 山田公民館
- 参加者 保護者 11名
- 傍聴者 市議会議員 3名、報道 0名

### 1 山田小学校再編に関する第2回保護者説明会について

事務局 資料に基づき説明

### 2 質疑・応答

保護者1: 胸上小の放課後児童クラブは、今、教室の一室を使われていると思います。山田小と統合したら、学童に行く人数もおそらく増えると思いますが、その場合、その教室一室で足りるのでしょうか。

事務局: 再編に伴い、教室の数や施設の拡大が必要になる場合には対応していきます。現在、二室を使用しています。必要に応じて柔軟に対応します。

保護者1: よろしくお願いします。

保護者2: 柔軟に対応するというのは、増築をするということですか。その教室数が足りなければ部屋を増やすという考え方ですか。

事務局: 現状の中で、放課後児童クラブを利用される方の数が分かり次第、対応について検討し、十分な対応をしていきます。

保護者2: 部屋を増やすということであれば山田でもできませんか。部屋が足りないから胸上にとということで先ほど説明があったと思いますが、今後の人数の推移とか、複式学級が生じていく場合に、通常学級の数も縮小していくということも考えられます。足りなかったら増やすのであれば、山田でもそれは何か適用できるんじゃないかなと疑問に思いました。

今回この会を開くのに、前回の会から1ヶ月ぐらいです。期間がなくて短かったと思います。仕事をされている方からしたら、すぐにお休みを取ることができません。今日も来れないので、反対の意見を伝えてくださいと言われた方とか、どうしても行けないから、私の意見を代わりに伝えてくださいというように、私の周りで言われた方もたくさんいました。

資料を説明されて、安心、納得がしたいのですが、一つも安心ができないまま、また1ヶ月経ったらこうやって説明会がある。なんでそんなに急いでするのか、もっと丁寧に時間をかけてやっていただきたいと私は思っています。安心して子どもたちのためにより良い学校を作っていこうとするならば、保護者が来られないような日程ではなくて、前回来られた方の人数をやっぱり

確保できるような参観日にするとか、そういう日にしていただけたら良かったと思います。この時期、インフルエンザが流行っていて、来られないお母さんたちはたくさんいらっしゃるの、来なかったらもういいですよっていうように感じます。説明会に来なかったら賛成、おおむね賛成というようにされると感じます。新しい1年生もこれから入ってきます。新年度始まってからでも別によかったのかなと思います。今日、これだけ人数が確保できていないというところに、本当に寄り添ってくださっているのかと思いました。明日、第3回があるってということで資料を頂いているんですけど、今日と同じ内容を明日説明されるのに第3回っておかしくないですか。そこは同じ内容なんですよ。説明はしました、でも同じ内容ですよっておかしくないですか。それをちょっと教えてください。

事務局： 説明会の回数の数え方については、もしかしたらおかしいと感じるかもしれませんが、回数としては2回、3回と数を重ねているので、内容は同じだとしても、そこについては事務局の数え方だけです。もしそういうところで誤解が生じるようであれば、次回から同じ内容を説明する場合は、第2回の1回目、第2回の2回目のような表現の仕方にはさせていただきます。そういったところまでは、こちらの配慮ができてなかったと思います。

保護者2： では、明日は第2回の2回目ということでしょうか。

事務局： 第2回の、1回目、2回目となります。

保護者2： 訂正をしていただくということで、お願いします。

事務局： 改めて案内はいたしません、その形で行います。

保護者2： 夜の会と明日昼の会とあるが、ここで出た意見は、明日来る人は知りえないと思います。だから、今日出た意見をちゃんとまとめていただいて、保護者の方に、昨日はこういう意見が出たと、伝えてもらえますか。

事務局： 時間的なこともあるので、きちんとまとめたものを示すことはできないと思いますが、口頭で昨日参加された方からはこういう意見が出ましたということは伝えることができると思います。

保護者2： 書面でも何でもいいので、今日と明日、出られない人にも伝わるようによろしくお願いしたいと思います。

事務局： 最終的には会議録をまとめた上で、ホームページに掲載させていただきます。

今日参加された方は明日参加した方の意見がわからないまま終わると思うので、そこについては会議録を見ていただけたらと思います。

保護者 2： 会議録があることも知らない人がたくさんいるので、そこもまたお知らせください。

事務局： テトルで会議録をホームページに掲載したことを案内いたします。ただ、会議録についてはなるべく早く掲載したいのですが、少し時間がかかりますので、そこについてはご了承ください。

保護者 2： そのようにしていただけたらいいです。お願いします。

保護者 3： 統合して新しい学校をつくろうとしていますが、統合後、その学校は何年続くことができるのですか。今の環境を壊してまで、長く続かないかもしれない学校をつくる意味を教えてください。

事務局： どのような時代になっていくか先のことはわかりませんが、今の計画上では、山田、後閑、胸上が再編して、胸上小を使うということで、東部地区にひとつ小学校を残すということでの計画としているので、しばらくは継続していく方針になっています。時代とともに、子供の数が減り、その時の状況によっては、また計画の見直しがあるかもしれません。ずっと残るかどうかにについては、現状で答えることは難しいかと思います。

保護者 3： では、統合後にその学校に通ったとしたら、またさらに少なくなったから統合してくださいって言われるんですか。

事務局： 今の計画では、そこまで計画していません。

保護者 3： 入学したら、その学校にいたいと思うじゃないですか。

事務局： 統合して、数年後また違う学校になるかもしれないというところのご心配ですね。

保護者 4： 何人とか決まっていますよね。

事務局： 人数では決めていないのですが、今の計画では複式学級にならないようにする計画ですので、山田小と胸上小を統合させた学校が、どういう状態か、今後の子供の人数によってどういう状態になるかということで判断していくことになります。

保護者 4： 今の時点の話でも大丈夫です。今もう数字が出ているのではないですか。未来のことは誰にもわからないので、今現状分かる数字で安心できたらいいのですが。

事務局： 今の計画上では、胸上小に山田、後閑、鉾立小を統合させた場合、1クラスではありますが、複式学級になる見込みはないので、このまま東部地区に一つ小学校を残す予定にしています。適正配置ということもありますので、今後、子どもの人数が減ってきた時には、そういったところも併せて検討していくこととなります。現状では胸上小の規模はそこまで大きくはありませんが、一学年1クラスのままで当面の間は続いていくので、今の段階では次の再編についての計画はしていません。

事務局： 補足になりますが、来年度予算の中にも、胸上小の施設整備関係の予算を計上しています。具体的には、長寿命化計画に基づく施設整備の関連経費ということで、今後、長くその学校を使っていく上で、どういった整備が必要なのかを調査し、整備が必要な場合は、今後40年を見据えた施設整備の関連経費を盛り込んでいます。今後は施設整備を踏まえて、適正配置の拠点校として、継続していく想定としています。

保護者 5： 複式学級諸々の話は、そもそもこの話をいきなり打ち上げて、結果的に山田小に複式学級の可能性を生じさせたという責任はありますよね。それを今、他人事のように言われてたので、そこを言わせてもらいました。

あと、資料の中で、教育環境関係となっている部分は、基本的に先生の資質に頼るような内容になってるのではないかと思います。今、山田で子どもたちを見てもらってますが、あの人数だから見てもらえてることはすごくいっぱいあると思っていて、それが胸上小に行った時に我々が期待してるようなケアを同じようにしてもらえるかすごく不安に思ってます。

これは最初からずっとお伝えしてるんですけど、それに対して、研修をすとか、何か手を打ってもらえるのか、あまり見えてこない。先生はみんな同じことやってるから、みんな同じことができるみたいに感じる。そういう文面になっているような気がしました。例えば、山田小の先生を再編後の学校にどんどん送り込んで、同じように見てもらおうとすると、先生にもものすごい負担がかかると思います。我々普通に仕事していてもそうだと思います。そのあたり要望としてお伝えしたいと思います。

事務局： 確かに子どもの人数が増えても、先生の人数が大きくは増えないと思います。ただ、複式が生じるような環境と比べますと、担任の先生の人数だったり、専科の先生がおられて、専門性の高い授業が提供できる可能性が高くなると

いったこともあります。もちろん教育相談の研修など一人一人の児童を細かく見ていくといった研修等をやっております。また、一人一人をしっかり見ていくという観点から、一人1台ずつ配布している端末を使って、それぞれの気持ちをしっかり把握する取組を行っており、心配な状況がある子どもにはしっかり声をかけていくといった方法も取りながら、少しでも不安な状況が取り除かれるように働きかけていきたいと思っています。それから、環境面で言うと、人数が増えることによって、行事や学習活動のバリエーションを増やすことができる。ある程度の規模の方が関わりに広がりが見られるといったことも期待されると考えています。

保護者6： 一人一台端末を活用して、心の健康管理をするというところなのですが、私だけかもしれないですが、あまり求めていないような気がしていて、端末で今心配してる、困ってると回答するよりも、すぐ近くにいる先生や関わってくれる先生に声をかけるべきではないかと思います。その方が子どもたちにとっては安心ではないかなと思ったりしました。人数が少ない方が先生に声をかけやすかったりする状況があるだろうし、子ども一人一人にとっても安心して生活できるのではないかと思いました。

なので、機械やAIとかもこれから使っていくことになるし、必要だとは思いますが、子どもの心配を取り除くためのAIというのは、使い方としてはあまり効果的ではないような気がします。それよりは先生たちが多い方が安心なのかなと思います。専科の先生ももちろん専門性を持って授業の研究とかもされるとは思いますが、それよりも一人の先生が見る児童の数が少ない方が、子どもにとっても良いような、保護者にとっても安心できると思いました。

保護者2： この計画によって不登校の子が増えるのは想定内であると説明会で教育長に言われたことがあって、私はそれをしっかり聞きましたが、不登校の子が増える想定でこの計画をされて、今もそう考えられて進められているのか聞きたいと思います。胸上小の現時点での不登校の子供、その予備軍にあたる児童の数を教えてください。今年の1年で変化はあったかどうか教えてください。

事務局： 今、言われたお話がどの時点で、どの回答だったか、私が把握できてないところはありますが、まずもって、その環境の変化が子どもたちにストレスになるということは間違いないかなと思います。スタートの部分で、新しい環境に入っていくことでストレスになることは想定されるので、そこについてはしっかり手当をすることは考えています。したがって、最初から不登校が大きく増えるというような話ではないと私は思っています。

ただ、結果的に不登校が増える可能性もゼロではないと思っています。年間30日から長期欠席になります。胸上小における対象者の人数、予備軍の人

数がどれぐらいいるかは、今、手元にデータがないので、この場でお伝えができません。

これまでに聞かれたことがあるかもしれませんが、自立応援室とって、教室以外の居場所も必ず必要な時には確保して設置することを進めています。また、中には就学指導をする中で、通常学級ではなくて支援学級に所属されて学校に来れるようになったといったような話もあります。一人一人の子どもたちの様子をしっかりと見ながら教育を進めることによって、長期欠席が解決、改善されたという例もあります。

全体の数が今増えているのか、減っているのかというあたりについては、すぐにお答えできず申し訳ありません。

保護者 2： 皆さんの意見としては、不登校の子どものリスクがすごく大きいと考えられていると思いますが、子どもたちがこの環境に入っていくことのリスクの方が私は大きいと思っています。

今、山田小は不登校の子いません。こういう状況の中で、もしかしたら自分の子供がそうなるかもしれない。5年生になる時、6年生になる時、女子のいざこざに巻き込まれてとか、いろんなことを想像しますけど、そういうことが想定内とされたら困るんです。そういう人も出るかもしれないけど、ケアしますではなく、みんなが安心して行けるような学校にしますって言ってくれないと、私は安心して送り出せないと思っています。

なので、今人数を知らないって言われましたが、今までのいろんな説明会があって、その中で言われる皆さんの意見は、やはり共通理解でいてほしいと思いますし、どう思われているか、皆さんの意見を教えてください。

保護者 4： 資料 2 は私が前回アンケートを取ってくださいと言った回答だと思います。アンケートを取ってくださってありがとうございます。これは一部抜粋だと思うので、他にもっと詳しい内容のものがあるかと思いますが、今これを見る限りで、役所の方はどのように捉えるんだろうと思います。割合的には、「慣れた」、「心配してない」、「良かった」の意見は多いかもしれないけど、「良かった」と「まあ良かった」の違いはあると思うし、その中でやっぱり「良くなかった」という意見が少なくてもあるわけで、これを踏まえてどのように思われるのか伺います。

事務局： 不登校の質問についてですが、新たに環境が変わるところで少し補足して説明しますと、やはり山田小から胸上小へ行く前の年には、既にご承知のとおり、交流授業や通学路の確認、通学支援など、スムーズに移行、溶け込めるような支援は、学校を挙げてやっていきます。それには支援を要する児童も一緒ですので、ご理解ください。これは同じように、後閑小の保護者の皆様にも、しっかりその点を伝えていきます。

アンケートについては、まず「心配だったことはあるか」に対してさまざま対応や反応があったと思いますが、その後の「その心配はどうなったか」について、みんな「今は心配してない」となっています。

保護者 4： みんなってどういうことですか。

事務局： 21 名がそう答えています。

保護者 4： 全回答者が 32 名ですか。それとも全児童数が 32 名ですか。  
その中の心配だった子 21 名に対して、その心配はどうなったかという質問をされたと。銚立小から何人行ったか私は知らないですが、保護者の数も少ないかなと思いました。保護者の回答の中の「その他」というのも気になりました。

事務局： 心配なことがあったお子さん 21 名が「今は心配ない」と回答しているところは、取り組んできたことが子どもたちにとって良かったのかなと思っています。今の学校が、少しでも安心できる状況が作れているのかなと思っています。

保護者 7： 銚立小から何人行かれたんですか。

事務局： 今回アンケートを取ったのが、入学した時から胸上にいた子は除いて、2 年生から 6 年生となっており、アンケート対象は 32 名と聞いています。

保護者 4： 全員からは回答を得ているということですね。

事務局： 子どもについては 32 名からの回答を得ていて、保護者については全員から回答を得られていません。

保護者 4： 子どもは全員取れたということですか。

事務局： 32 名については回答が得られているということです。

保護者 7： 全員で何人かを聞いていいですか。

保護者 4： 全員が何人かわからないと、このアンケートが信用できるものじゃないかもしれない。

事務局： すみません。数字についてはまた整理してホームページに載せようと思いま

す。

保護者 3： Google フォームからのご意見ご要望ですが、私は意見をしていますが、載っていません。どのようなやり方で掲載しているのかと思います。いいことだけを載せてるのかと思います。

保護者 2： そちらの都合のいいような説明をするために私たちが回答してるわけではないです。不安な意見の中にも賛成の気持ちも反対の気持ちもあります。それを概ね賛成でしたって言われるのは違うなとさっきの説明で思いました。

事務局： 資料の回答の中で、記載できていなかったのは、例えばスクールバスの関係でしょうか。こちらは 3 月 19 日現在の内容を集計しており、計 16 名の方からご回答をいただきました。

保護者 3： 次の日に送っています。

事務局： 今回抜粋して載せていますが、中には、何人の子どもがいるとか、個人情報が入っているものがあるので、抜粋しています。いただいたご意見としては、例えば統合に反対という意見だったのでしょうか。今後、個人が特定される可能性があるところは黒塗りにして、全体の文面も、頂いた内容を表にした形でホームページに上げようと思います。  
今回はどなたのご意見も掲載していないということはないです。長い文章で送られている内容だったのでしょうか。

保護者 2： 意見が言えないからそこに送っています。その場で言えなかったから、彼女は頑張って送っています。それをなしにされている感じに腹が立ちます。

事務局： 要約した形で載せているのは、他の方もそのようにしています。反対というお答えをいただいた方も要約をしています。  
ただ、信用ならないという話になりますので、この内容も少し個人が特定できないように部分的に黒塗りするなどして、改めて全て公開します。そちらで内容を見ていただいて、賛成、反対という意見を恣意的に載せていないことを確認してください。

保護者 8： 資料の 4 ページ「市民センターの駐車場が足りるのか」について、学校から駐車場所を指定することはないと言われましたが、例えば遅刻しそうだから、市民センターや周辺の私有地に勝手に停めたことで、トラブルになった場合、学校は関係ないということですか。

事務局： どこに停めていただくかは、お子様の安全を確保した前提ですが、保護者の判断になります。常識の範囲で判断してもらった上で、お子様を送っていただくということは構わないという意味です。

保護者 8： どこかに止めてトラブルが起こった時に知らないということですか。

事務局： そうなります。他の方とのトラブルまで、教育委員会としてケアできないということです。

保護者 8： わかりました。

保護者 5： 前提として、車で送迎するのは良いのですか。そうでなければ自己責任というのは理解します。ただ、学校側から車での送迎をお願いされていると、学校にも責任が生じると思うので、そこは明確にしてもらいたい。

事務局： 原則、登校班で集団登校することになります。ただ、事情によっては送ってこられる方もいます。ケースバイケースで学校によって対応が違います。

保護者 8： では、胸上小になった場合はどうでしょうか。

事務局： 胸上小の場合は、集団登校しているのが中心になります。ただ、個々で確認してみると、事情があって遠くから来ているお子さんがいるかもしれません。

保護者 8： 車での通学を認めていますか。

事務局： 状況によっては認めていることもあると思います。

保護者 8： 認めているのであれば何かトラブルがあった時は責任をとってくれますか。

事務局： 原則、登校班による集団登校ですので、自己責任のもとで連れてくることを認めているということです。

保護者 2： 通学の責任は保護者にあるということですか。

事務局： そうです。車で来ることを認める場合もあると思いますけれども、通学時に起こりうることについては、保護者の責任になります。

保護者 8： それは保護者の責任と書いておいたほうが良いと思います。

保護者 3： 登校するときにボランティアの見守り隊は配置されますか。

事務局： 今はどのようになっていますか。

保護者 3： 今はボランティアの方が見守り隊として見ていただいています。山田地区や地域の方が見守り隊として行けたとしても、距離が遠いと思います。その場はどうなるのか。誰も配置されず、子どもたちで勝手に行くことになりませんか。

事務局： 山田地区の方と胸上地区の見守り隊の方に協力をお願いすることになるとは思いますが、していただけないところが出てくると、そこは、子どもたちだけで通学することになるとは思います。

保護者 8： 最後の Google フォームのところで、前向きな意見が多かったとお聞きしました。白紙に戻すことはないという前回の参観日の時も言われましたが、それを踏まえた上で見ると、白紙に戻すことがないのなら、しょうがないとの意見が多いように思えます。中には確かに再編したいとの意見もありますが、白紙に戻すことがないという前提だと、どちらかという反対の意見だと感じました。

事務局： 確かに前回のお話で、計画の内容をゼロベースで見直すことは想定していないことを説明してきました。何十年もある学校がなくなってしまうという寂しさはあると思いますが、今後、将来の子どもたちの教育環境を見据える中で、再編の必要性を訴えていき、一定程度の理解をいただくために、複数回の説明会を開催しています。

保護者 8： 一定とは大体どのぐらいを想定していますか。

事務局： 以前の説明会の中で7、8割という発言があったことで、そこだけを切り取られて、数値が一人歩きしていると考えています。一定の理解というのは、反対の方が少数で、多くの皆さんが再編はやむを得ないと考えている状態です。保護者の皆さんとしっかりと意見交換や議論をしていき、予算が必要なことであれば、市議会に提案していきます。

保護者 8： 7、8割じゃなくても進めるということですか。

事務局： 7、8割というのは、どこからどこまでの保護者なのか、地域の皆様を含めてなのか、捉え方自体が難しいと思っています。決して数字だけで申し上げられることではないと考えています。

保護者 8： 7、8割が賛成じゃなくても進める可能性があるということですか。

事務局： 反対の皆さんが少数になることだと思っています。

保護者 8： 一定の理解に不安を覚えます。少しでも賛成があったら一定の理解とされる気がします。

事務局： 今日もいろんなご意見が出ましたが、そのやりとりの中で、やむを得ないという認識が積み重なれば、一定の理解であると考えています。

保護者 8： 今度から「はい」か「いいえ」で答えれる質問には、「はい」か「いいえ」で答えてほしいと思います。

保護者 2： やむを得ないでやっていいことではないと思います。私は地域に学校があるということが安心、安全だと思います。登下校が保障されず、責任は親が取らないといけないことはリスクが大きすぎると感じます。  
また、準備委員会の中で決めていくことが多すぎて、そのような責任の重い仕事をやむを得ない気持ちで行っていいのかと思います。既にルールが敷かれていて、決まった方向にしか進んでいかないという話も聞きます。準備委員会の委員になるのは、この小学校の保護者の方ですか。

事務局： 再編に関係する小学校の保護者、それから地域の方々、学校の先生という形になります。

保護者 2： やむを得ないと思っている人は、私の周りにはかなり少ないです。そちらの方の基準を持って「やむを得ない」、「概ね理解を得た」と測られるのが、おかしいと思っています。説明会を何回か開催して聞いてもらえたから「概ね理解を得た」とするのは違うと思います。

事務局： 実際に学校を再編するにあたり、適切でないまま進んでいくことは考えていません。再編準備委員会は、通学安全部会、PTA部会、総務部会、学校運営部会の4つの部会の中で、委員の皆さんが納得いくまで議論を進めて決めています。決してルールが敷かれているものではありません。

保護者 2： 準備委員会が立ち上がったなら、反対している人の気持ちは排除される気がして、私は嫌です。本当に娘を卒業させたいと強く思っているのでも、納得がいくまでは反対しますし、それでも押し進めるのであれば、協力はできません。

保護者 6： 友達や選択肢が増えるという言葉があったと思いますが、それならば学校を選ぶ選択肢もあってもよいと思いました。再編に賛成されている方の意見で、たくさんの人の中で自分がどうしていくか考えることや行動して、そのたびに解決していく姿勢を見せることが大切と書いてありますが、私もそのように思います。一方で、解決していく姿勢を見せることが大切と言われるのであれば、こういう会にも是非参加するべきだと思います。説明会に参加する中で、賛成の人の強い意志を聞きません。賛成の思いをぜひ教えて欲しいです。

また、先生がかなり減るような印象ですが、山田小にいる先生が胸上小に行かない場合、その先生たちは職を失うのですか。

事務局： 賛成の方も説明会に参加してほしいという意見については、こちらも可能であれば、賛成の方も全員参加していただいて、議論いただくのが一番理想的な形と考えています。

ただ、これまで相当な回数の説明会をした中で、反対の声が非常に大きく、賛成の方が発言しにくいという意見をいろいろなところから聞いています。そのような中で、一人一人の保護者の方の意見をできる限り拾うための仕組みとして Google フォームを活用しております。双方に納得いく形で議論することが有意義なことだと思いますが、なかなか難しい現状がありますので、ご理解ください。

保護者 2： 今日の資料で、賛成や反対が書いていない文章がありますが、それは賛成という言葉が消しているのか、加工していますか。

事務局： 今回 16 名の方に質問いただいておりますが、例えばスクールバスに関する質問は、資料の「遠距離通学について」の中で回答しています。

保護者 2： 賛成や反対が書いていない文書に対しては、賛成の意見と判断されているんですか。

事務局： こちらは要望として判断しています。

保護者 2： 賛成が多いと思っていませんか。

事務局： Google フォームのご意見、ご要望を見ると、賛成の声が多かったと判断しています。それ以外に明確に言われてない方については、基本的には要望と整理しています。

もう一つ、先ほど先生が職を失うのではないかと質問がありましたが、学校の先生方は県の職員であり、人事異動によって別の学校へ行かれますので、

失職することはありません。

保護者 2： 前回の説明会で発言した人に加えて、この Google フォームの意見があっても、私は賛成が多かったと感じていません。賛成か反対を明確に記入することになっていないのに、文章によって賛否を判断されるのはおかしいと思います。

事務局： 今回、この Google フォームに関しては、テトルを通じて、参加できない方に対しても、資料と共に通知しています。賛成反対の意見はもちろんのこと、要望や意見、何でもいいので意見をいただくために実施しています。

保護者 8： Google フォームでの意見もありますが、これまで出た意見も意見だとは思っているので、次回、開催するときはその意見も資料に載せてほしいです。

事務局： 説明会での意見は、会議録という形になりますので、改めて資料を作成しての説明は考えていません。これまで賛成反対といった意見も含めていろいろな意見を伺っています。まだ発言をしていない方、回答していない方、あるいは追加での意見、要望もあると思いますので、今後はそのあたりを把握し、次回、フィードバックをしながら理解を深めていければと考えています。

保護者 5： 今回の資料で、赤線で新しく想定される通学路と明示されていますが、この赤線の部分は多分一番危ないところだと思います。今、橋の工事しているので車通りは少ないですが、橋の修理が完了した時にはものすごい車が通ります。ここを通る子供の数は徒歩圏内で多分 20 人はいると思いますが、橋の修理ついでに何かいい手打ってもらえませんか。

事務局： 通学路の安全は必須項目ですので、再編準備委員会が設置ができましたら、通学安全部会の中で、どのような交通安全施設が必要なのかを調査した上で、必要があれば県や国にも要望していく形で進めていきます。再編準備委員会が立ち上がりましたら、いろんな方からご意見をいただき、可能な限り対応していきたいと考えています。

保護者 3： 統合するにあたって、交流をされると言われましたが、今の学校のままでもスクールバスを使って学校を行き来したり、遠隔授業を行ったりすることはできると思います。そういう取り組みをしようとしていますか。

事務局： 今後、統合したときの不安を少しでも払拭するために交流活動を計画することを考えています。

保護者 3： 山田小だけでは人数が少ないから、それを補うためにスクールバスで胸上小と交流してグループ活動を行ったりすることもできるのではないのでしょうか。

保護者 2： 統廃合をする前に、児童数が少ないからできない課題があるのであれば、それを補うように、今でもできることがあると思います。何か対策をしたうえで統合を考えることはできませんか。

事務局： 日常的な交流というところまではなかなか難しいですが、今でもプールのための交流などはずっと行っています。小学校同士の交流活動は、可能な範囲で行っていく予定です。

保護者 2： 今の1年生が3人と分かった時点で、課題があると思うのであれば、何かできることがあったのではないですか。  
プールの交流などは以前からありました。子どもが少ないから統合しようではなく、その前にできる対策があったのではないですか。

事務局： もちろん交流活動ができるように、それぞれの先生方の中で互いに授業を見合ったりしています。先生方もお互いのことを知って、子どもたちを理解していくことも進めています。交流活動を増やすために何ができるかというところは工夫していかないといけないと思っていますし、今までもそのように取り組んできたと考えています。

保護者 2： いろいろな学校の事例ではなくて、結果的に山田小は3人になっています。この統廃合の話があったから、結果的に3人になってしまった。もう3人だから統合しますではなくて、山田小でできる具体的なことが何かあったのではないですか。

事務局： 学年だけじゃなく、縦割班などでも活動してると思うので、いわゆる集団活動ができるように学校の中でも工夫はしています。

保護者 3： 学校内で山田小の児童数が少ないことは、最初から分かっていたのではないですか。この1年間でグループ活動ができるように違う学校と交流するような対策はなかったのですか。

事務局： 交流活動については、どうしても距離であったり、具体的に動く手段であったりと制限はあります。いろいろ工夫をして、遠隔でつないで発表することもしていますが、具体的に山田小の1年生がどうだったかは確認ができておりません。同級生と触れ合うような、そんな機会を持てるように各校で工夫

していると思います。ただ、具体的に現時点で把握できてはいないのでこの場での答えは難しいです。

保護者 2： 結局、現場にいる先生が対応するということですか。

事務局： もちろん我々としても、行きやすくするための仕組みであったり、学習活動の事例を提示できるかと思います。具体的にどう進めていくかは、学校で決めていくものと考えています。学習活動の細かい部分まではお話はできていませんが、1年生が3人だけで過ごしていることの課題として、縦割班であったり、他校の情報を話し合ったりするなどして対応していると思います。

保護者 2： 胸上小と一緒になったときも、具体案は示すけど、現場の先生に任せっきりということですか。

保護者 3： 投げやりだと思います。事例を伝えるだけで、あとは先生たちの責任と言っていると同じではないですか。

事務局： 責任を先生方に押し付けるという意味ではありません。逆に言うと、我々が具体の教育活動を決めていくことはできません。一番近くにおいて、その課題をしっかりと把握している先生方、校長先生を中心に学校の中でどのような教育活動をしていくかは、ある程度学校が主体性を持って判断していくものと思います。

保護者 2： 通学路のことで、ほかの保護者から聞いてほしいと言われたことがあります。実際の通学路は準備委員会で決めていくと言われましたが、危ない場所があるのであれば、今にでも想定できること、対策できることをしてほしいと言われていました。

また、令和9年度から後閑小の子どもたちも胸上小に行くということで、路線バスで後閑小の子どもたちは胸上小に行く聞いています。山田小もこの計画が進んだ時にはスクールバスではなく路線バスを考えられていますか。

事務局： どこの地区もそうですが、基本的には路線バスが走っている地域は、まず路線バスに乗れるかどうか判断します。後閑小を例に取りますと、胸上小に行く場合には、シーバスを活用する想定です。小学生なので、基本的にはバスに座って通学するという前提で考えていますが、通学の時間帯に乗車の方が多くて座れないということになると、シータクなどの違う手段を考えていく流れになります。

保護者 7： 鉾立小の子どもたちは、バス乗る時にカードをかざすことで、保護者へ乗車

した通知が届くようになっていますが、後閑小の場合はそのような機能が無いということですか。

事務局： 路線バスやシータクにそういった機械を設置するのは非常に難しいです。今、どういうやり方があるか検討しているところですが、一つのアイデアとして、学校の門のところに機械を設置して、保護者の人へ通知するシステムの活用も検討しています。

保護者 7： どうして鉾立小の子どもたちと同じようにしないのか教えてください。

事務局： 鉾立地区のバスは市所有のバスですので、色々なシステムを設置することはできますが、路線バスやシーバス、シータクは、日々の走行で同じ車両を使うとは限らないためです。

保護者 2： どうして鉾立小の子どもがスクールバスで、後閑小の子どもは路線バスで同じ条件ではないのでしょうか。

事務局： すみませんが、本日は後閑地区の話をするところではないので、ご理解ください。

保護者 2： 今後、私たちもバスを利用することになるので、後閑小と同じ状況になるのではないかという不安があります。

保護者 4： 鉾立小も路線バスになるのですか。

事務局： 鉾立地区の場合は、路線バスが確かに通っていますが、全員で40数名の児童数になるため、1台だけでは賅えない人数です。鉾立小はバスの台数2台必要ですが、路線バスがその時間は1台しか通りません。全員が乗ることができないため、スクールバスを活用しています。後閑小の場合は、まず路線バスが通っていて、路線バスに座れる状態でしたので、個別のスクールバスの必要性がありませんでした。山田地区に関しても、そのときの人数を把握して、路線バスを使うかもしれませんし、別の手段になるかもしれません。基本的には、まず路線バスがあるところは路線バスを使うことになります。

保護者 8： 鉾立小には、そういうシステムがあるけど、後閑小にはないということですか。

事務局： 鉾立小の場合は、システムがバスについていますが、路線バスやシータクは、

毎回同じ車体が来るとは限らないので、そのようなシステムが設置できません。

保護者 8： 説明がわかりにくいので、後閑小には、あるか無いかどちらのでしょうか。

事務局： 今の時点ではありません。これからどういうものを導入するか検討します。

保護者 8： わかりました。

保護者 2： 山田小の子どもが路線バスに乗る場合に、バス停までは徒歩で行くことになりますか。

事務局： 最寄りのバス停までは歩いていただくようになります。

保護者 2： バスに乗って梶岡で降りることになると思います。シーバスだと市民センターに乗り入れてると思いますが、乗り入れないバスを利用した時は、梶岡まで来てそこから歩いて小学校へ行くということですか。

事務局： そうなります。学校のすぐ近くにバス停がありますので、そちらから歩いて登校することになります。学校へ行く時には道の反対側になるので、横断歩道を渡っていただくことになります。

保護者 2： 授業の終了時刻が変わることがあると思います。スクールバスだとそれに対応できると思いますが、路線バスの時間を変えてもらうことはできないと思うので、バスが来るまでの空白の時間ができたときに子どもたちはどのように過ごすと考えられますか。

事務局： 帰りの時間は、学年によっても違う場合がありますので、基本的には帰る時間に合わせて何便かシータクを走らせるといった調整が必要と考えています。

シーバスの帰りの時刻は、小学校の時間終わりには、対応が全てできるわけではないので、そういったところはシータクや別の方法での対応を考えています。

保護者 4： シータクは家の前で停まってくれますか。

事務局： どこに停まるかについては、今後の調整になってきます。家の前までは難しいと思います。その拠点をどこへ設けるについては、今後、調整していきます。

保護者 8： 帰る時間に対応してないということは、時間が来るまで待つのですか。

事務局： シータクの場合は、帰宅時間に合わせて依頼をかけるので、何十分も待つということにはならないと思います。

保護者 8： それはできるんですね。

事務局： はい。

保護者 4： 通学に関しての要望ですが、例えば、山田小や後閑小をバスの発着点すれば、不公平感がないのではないかと思います。そうなるとスクールバスになると思いますが、危ない道は通らなくてもよくなると思います。  
どんなパターンが考えられるのかを具体的に示した方が、交通、通学に対して不安に思っている保護者は、納得して賛成してくれるのではないかと思います。

事務局： ありがとうございます。

保護者 2： 今日参加できなかった保護者の方から意見を伺っているので、それを言わせてください。  
前回の説明会の議事録を読ませてもらって、一昨年の説明会から何も進展があったように思えませんでした。  
統合の話が出てから年単位の時間が経過しているけど、通学路の危険箇所の具体的な対策内容とそれにかかる時間と経費など具体的に試算されていると思います。この中には予算的に無理だから諦めた箇所はありますか。これについては準備委員会で対応していくということでしょうか。

事務局： 今までの中学校の再編ではなく、山田地区のことについてでしょうか。  
どのようにするかは再編準備委員会の中で決めていくことになります。

保護者 2： それは2年でできますか。要望を受けて実際に始まる時には必ずここに信号がつきますか。

事務局： 実際にどこまでできるかについては、極端な話もありますので、それが2年以内に確実にできるかは、ここで確約できるものではございません。信号機や横断歩道、市道がどこまで対応できるのか、そういったところは一つ一つ早急にできるものから対策していきます。

保護者 2： もう一点伝えてくださいと言われたので、伝えておきます。

行政の対応が子どもたちや地域を向いているように思えない。地域や保護者の不安や疑問、不満を解決しようという誠意は全く感じられません。統合には絶対に賛成できません。学校がなくなると子どもたちは帰ってきません。若い転居者は来ないでしょう。今ある地域の力さえなくなる。統合を話し合う前にそれを避けるための努力をしてください。